

統一的な基準による  
青森市の財務書類

【平成29年度決算】



令和元年 5月

青 森 市

# 目 次

第1 はじめに ～統一的な基準による地方公会計の整備～	
1. 統一的な基準による地方公会計の整備 .....	2
2. 地方公会計制度とは .....	3
3. 作成基準日・作成対象期間 .....	3
4. その他 .....	3
第2 平成29年度の決算状況	
財務書類（統一的な基準）による決算報告 .....	4
第3 各財務書類の説明	
1. 貸借対照表 .....	5
2. 行政コスト計算書 .....	8
3. 純資産変動計算書 .....	8
4. 資金収支計算書 .....	11
第4 財務書類から分かること（財政分析）	
財務書類から算出される指標など .....	12
【資料】財務書類	
一般会計等 .....	15
全体会計 .....	22
連結会計 .....	27

# 第1 はじめに ～統一的な基準による地方公会計の整備～

## 1. 統一的な基準による地方公会計の整備

青森市では、市民の皆さまに本市の財政状況を詳しくお知らせするため、これまで総務省の「新地方公会計制度研究会報告書」及び「新地方公会計制度実務研究会報告書」で示された財務書類のモデルのうち、「総務省方式改訂モデル」を用いて「財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）」を作成してきました。

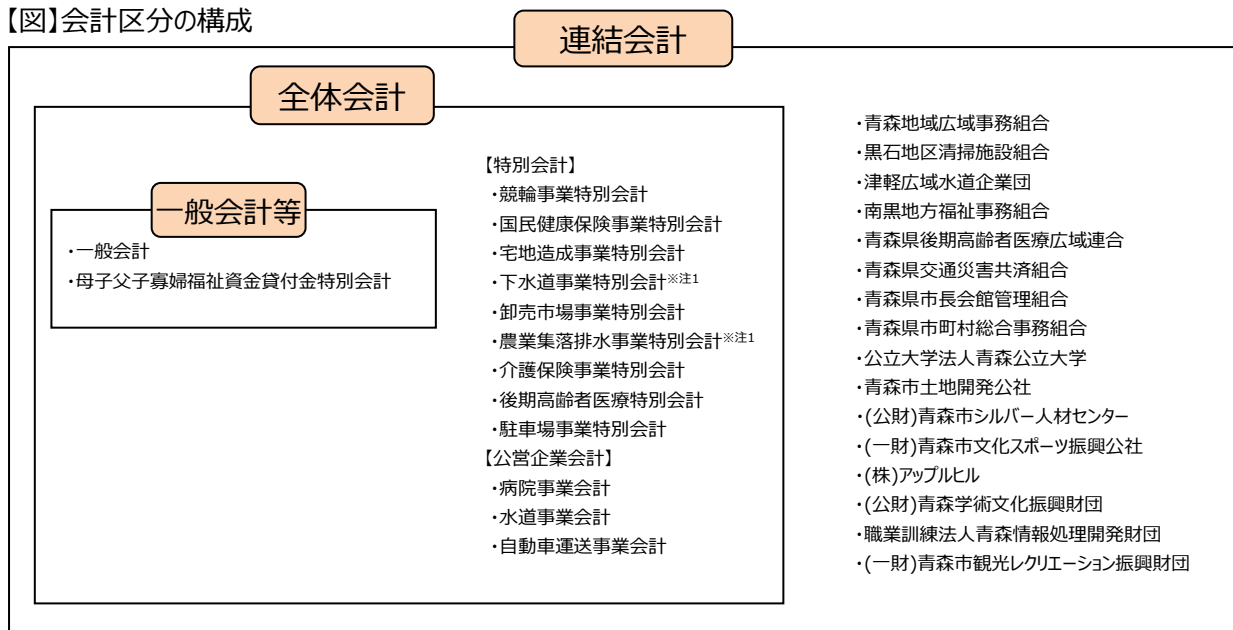
こうした地方公会計の整備（財務書類の作成）は、全国的に進められてきましたが、複数の基準があることで市町村間の比較が難しい等の課題があったことから、平成26年度に総務省から「統一的な基準」が示され、全国の市町村等は、平成29年度までにこの基準に沿った財務書類の作成が必要となりました。このことから、青森市では、平成28年度決算から、この「統一的な基準」に沿った財務書類の作成を行い公表することといたしました。

これら財務書類にて、本市がこれまでに取得した資産や負債に関する情報及び行政サービスに要した費用に関する情報などを通して、本市の財政状況に対する理解を深めていただけるものと思います。

【表】新地方公会計制度で作成する財務書類

統一的な基準での名称	企業会計での名称	内容
貸借対照表	貸借対照表	基準日時点における財政状態（資産・負債・純資産の残高及び内訳）を表示したもの
行政コスト計算書	損益計算書	一会計期間中の費用・収益の取引高を表示したもの
純資産変動計算書	株主資本等変動計算書	一会計期間中の純資産（及びその内部構成）の変動を表示したもの
資金収支計算書	キャッシュ・フロー計算書	一会計期間中の現金の受払いを3つの区分で表示したもの

【図】会計区分の構成



※注1：下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計について、非法適用から法適用に移行することに伴い、この資料における全体会計の内訳に含まれておりません。法適用移行後(令和2年4月1日)より含まれることとなります。

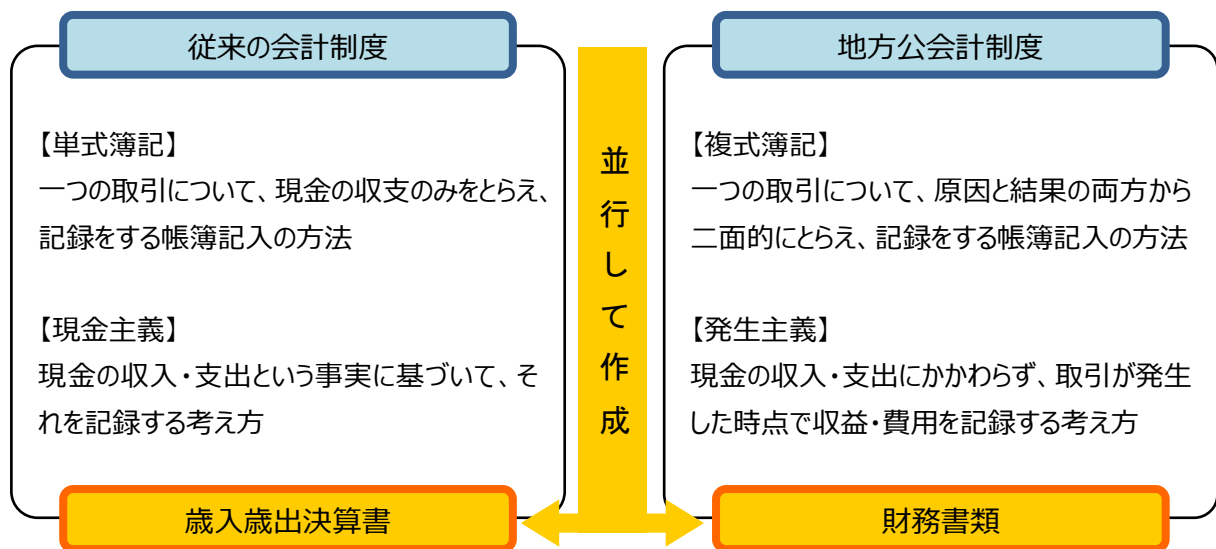
※注2：青森駅前再開発ビル(株)は、平成29年3月31日付で解散（平成30年4月14日付で特別清算終了）したため、平成29年度決算より連結対象から除外しております。

## 2. 地方公会計制度とは

地方公共団体の会計方式（単式簿記・現金主義）は、現金の収支に着目して整理されており、予算の適正・確実な執行を図るという面で優れていますが、土地や建物、現金預金等の資産や市債等の負債といったストック情報や減価償却費などの見えにくいコストの把握が困難であるという問題があります。

そこで、民間企業の会計方式（複式簿記・発生主義）や考え方を地方公共団体にも取り入れる新たな地方公会計制度の整備が進められてきました。

この会計制度により作成された財務書類（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）は、従来の会計方式では見えにくいストック情報・コスト情報を備えており、更にはこれらの情報を総体的・一覽的に把握することができます。



## 3. 作成基準日・作成対象期間

<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸借対照表</li> <li>・行政コスト計算書</li> <li>・純資産変動計算書</li> <li>・資金収支計算書</li> </ul>	}	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成基準日 平成30年3月31日</li> <li>・作成対象期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 4. その他

本資料では、各項目で表示単位未満の数値を四捨五入しております。そのため、説明文中において数値が一致しない場合や、表中で合計が一致しない場合があります。

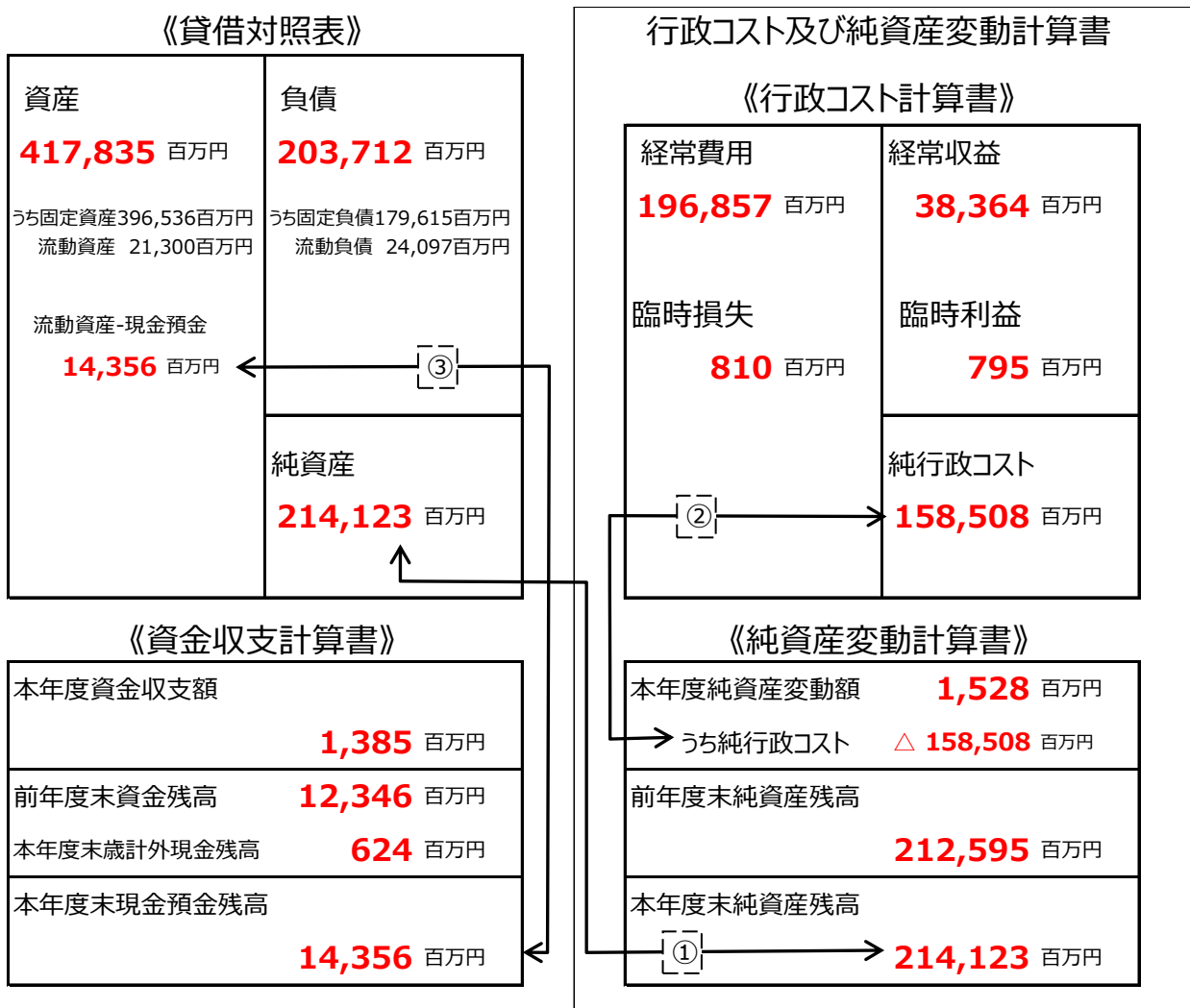
## 第2 平成29年度の決算状況

### 財務書類（統一的な基準）による決算報告

地方公共団体の財務会計は、年度単位を基本として、収入と支出を単純に差し引きする単式簿記の方法を用いているため、取得した資産の状況や減価償却などの費用について把握ができません。現金の出入りだけでなく、これまでに蓄積された「資産」や発生した「経費」を含めて分析・公表するために、民間企業の会計手法を取り入れたのが「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」になります。以下の表は、青森市の全体会計における平成29年度決算の状況を示しており、矢印は、それぞれの財務書類が相互に関連していることを表しています。

- ①貸借対照表の「純資産」の変動を表したものが、純資産変動計算書です。
- ②純資産変動計算書における変動要因のひとつが「純行政コスト」ですが、その明細を示すのが行政コスト計算書になります。
- ③「資金収支計算書」は、歳計現金の動きを表す計算書で、「本年度末現金預金残高」が、貸借対照表の「現金預金」と一致します。

#### 【平成29年度青森市全体会計決算状況】



# 第3 各財務書類の説明

## 1. 貸借対照表

「貸借対照表」は、行政サービスを提供するための資産をどれだけ保有しているか、また、その見返りとして将来世代の負担となる地方債等の債務がどのくらいあるかを知ることができます。具体的には、これまでの行政活動によって形成された道路、建物、土地などの資産と、その資産を形成するために要した負債や財源との関係を表したものです。資産の部、負債の部及び純資産の部で構成され、資産の部にはこれまで積み上げてきた資産・財産、負債の部には将来世代が負担する金額、純資産の部にはこれまで負担してきた金額が示されています。

○平成30年3月31日現在

(単位：百万円)

	一般会計等	全体会計	連結会計		一般会計等	全体会計	連結会計
<b>資産の部</b>	<b>332,043</b>	<b>417,835</b>	<b>444,415</b>	<b>負債の部</b>	<b>160,288</b>	<b>203,712</b>	<b>212,350</b>
<b>固定資産</b>	<b>326,064</b>	<b>396,536</b>	<b>416,500</b>	<b>固定負債</b>	<b>143,962</b>	<b>179,615</b>	<b>183,219</b>
有形固定資産	298,183	364,710	380,276	地方債等	130,550	153,059	155,166
事業用資産	161,599	178,949	191,507	長期未払金	-	-	67
インフラ資産	135,947	179,079	180,115	退職手当引当金	12,976	19,051	19,255
物品	636	6,682	8,655	損失補償等引当金	-	-	-
無形固定資産	1,762	1,765	2,116	その他	436	7,505	8,730
投資その他の資産	26,119	30,061	34,107	<b>流動負債</b>	<b>16,326</b>	<b>24,097</b>	<b>29,131</b>
(うち基金)	11,086	12,411	16,390	1年内償還予定地方債等	14,631	19,818	23,654
<b>流動資産</b>	<b>5,979</b>	<b>21,300</b>	<b>27,915</b>	未払金	34	1,888	2,142
現金預金	2,911	14,356	16,986	未払費用	190	196	212
未収金	501	3,716	3,644	前受金	-	3	103
短期貸付金	218	218	218	前受収益	-	-	-
基金	2,276	2,742	2,960	賞与等引当金	841	1,324	1,581
棚卸資産	35	163	3,996	預り金	624	723	773
その他	49	237	241	その他	7	146	667
徴収不能引当金	▲ 10	▲ 132	▲ 132	<b>純資産の部</b>	<b>171,755</b>	<b>214,123</b>	<b>232,065</b>
<b>資産合計</b>	<b>332,043</b>	<b>417,835</b>	<b>444,415</b>	固定資産形成分	<b>328,558</b>	<b>399,496</b>	<b>418,466</b>
				余剰分(不足分)	<b>▲ 156,803</b>	<b>▲ 185,373</b>	<b>▲ 187,182</b>
				他団体出資等分	-	-	<b>781</b>
				<b>負債・純資産合計</b>	<b>332,043</b>	<b>417,835</b>	<b>444,415</b>

### 《用語解説》

<p>【資産の主なもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○有形固定資産 事業用資産：庁舎・学校・公民館等の資産 インフラ資産：道路・公園などの社会基盤となる資産 物品：器具備品や美術品等の資産</li> <li>○無形固定資産 ソフトウェアや地上権等の無形資産</li> <li>○投資その他の資産 財政調整基金以外の基金、長期延滞債権等の将来現金化が可能な資産</li> <li>○流動資産 現金預金：市が保有する現預金、歳計外現金等 未収金：税金や使用料等のうち納期限後1年を経過していない未収金 基金：財政調整基金 徴収不能引当金：債権のうち未回収となる見込額</li> </ul>	<p>【負債の主なもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○固定負債 地方債等：市債のうち、償還期限が1年超のもの 退職手当引当金：全職員が自己都合で退職したと仮定して算出した退職金の総額</li> <li>○流動負債 1年以内に返済や支払を要するものや、すでに支払い義務が確定しているもの等</li> </ul> <p>【純資産】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○固定資産形成分 資産形成のために充当した資源の蓄積で、原則として金銭以外の形態(固定資産等)で保有されるもの</li> <li>○余剰分(不足分) 費消可能な資源の蓄積を表し、原則として金銭の形態で保有するもの</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 《参考》前年度比較

【一般会計等】

(単位：百万円)

	H29①	H28②	比較①-②		H29①	H28②	比較①-②
<b>資産の部</b>	<b>332,043</b>	<b>338,805</b>	<b>▲ 6,762</b>	<b>負債の部</b>	<b>160,288</b>	<b>166,889</b>	<b>▲ 6,601</b>
<b>固定資産</b>	<b>326,064</b>	<b>330,589</b>	<b>▲ 4,525</b>	<b>固定負債</b>	<b>143,962</b>	<b>150,315</b>	<b>▲ 6,353</b>
有形固定資産	298,183	303,149	▲ 4,966	地方債等	130,550	136,260	▲ 5,710
事業用資産	161,599	162,201	▲ 602	長期未払金	-	-	-
インフラ資産	135,947	140,238	▲ 4,291	退職手当引当金	12,976	13,511	▲ 535
物品	636	711	▲ 75	損失補償等引当金	-	-	-
無形固定資産	1,762	2,189	▲ 427	その他	436	544	▲ 108
投資その他の資産	26,119	25,251	868	<b>流動負債</b>	<b>16,326</b>	<b>16,574</b>	<b>▲ 248</b>
(うち基金)	11,086	9,316	1,770	1年内償還予定地方債等	14,631	14,966	▲ 335
<b>流動資産</b>	<b>5,979</b>	<b>8,216</b>	<b>▲ 2,237</b>	未払金	34	41	▲ 7
現金預金	2,911	3,129	▲ 218	未払費用	190	244	▲ 54
未収金	501	505	▲ 4	前受金	-	-	-
短期貸付金	218	228	▲ 10	前受収益	-	-	-
基金	2,276	4,274	▲ 1,998	賞与等引当金	841	812	29
棚卸資産	35	35	0	預り金	624	503	121
その他	49	54	▲ 5	その他	7	8	▲ 1
徴収不能引当金	▲ 10	▲ 10	0	<b>純資産の部</b>	<b>171,755</b>	<b>171,916</b>	<b>▲ 161</b>
<b>資産合計</b>	<b>332,043</b>	<b>338,805</b>	<b>▲ 6,762</b>	固定資産形成分	<b>328,558</b>	<b>337,850</b>	<b>▲ 9,292</b>
				余剰分(不足分)	<b>▲ 156,803</b>	<b>▲ 165,933</b>	<b>9,130</b>
				他団体出資等分	-	-	-
				<b>負債・純資産合計</b>	<b>332,043</b>	<b>338,805</b>	<b>▲ 6,762</b>

【全体会計】

(単位：百万円)

	H29①	H28②	比較①-②		H29①	H28②	比較①-②
<b>資産の部</b>	<b>417,835</b>	<b>423,424</b>	<b>▲ 5,589</b>	<b>負債の部</b>	<b>203,712</b>	<b>210,830</b>	<b>▲ 7,118</b>
<b>固定資産</b>	<b>396,536</b>	<b>401,569</b>	<b>▲ 5,033</b>	<b>固定負債</b>	<b>179,615</b>	<b>187,689</b>	<b>▲ 8,074</b>
有形固定資産	364,710	370,297	▲ 5,587	地方債等	153,059	160,428	▲ 7,369
事業用資産	178,949	180,137	▲ 1,188	長期未払金	-	-	-
インフラ資産	179,079	183,152	▲ 4,073	退職手当引当金	19,051	19,516	▲ 465
物品	6,682	7,008	▲ 326	損失補償等引当金	-	-	-
無形固定資産	1,765	2,192	▲ 427	その他	7,505	7,745	▲ 240
投資その他の資産	30,061	29,080	981	<b>流動負債</b>	<b>24,097</b>	<b>23,141</b>	<b>956</b>
(うち基金)	12,411	10,464	1,947	1年内償還予定地方債等	19,818	18,982	836
<b>流動資産</b>	<b>21,300</b>	<b>21,855</b>	<b>▲ 555</b>	未払金	1,888	1,762	126
現金預金	14,356	12,849	1,507	未払費用	196	251	▲ 55
未収金	3,716	3,924	▲ 208	前受金	3	3	0
短期貸付金	218	228	▲ 10	前受収益	-	-	-
基金	2,742	4,764	▲ 2,022	賞与等引当金	1,324	1,288	36
棚卸資産	163	152	11	預り金	723	672	51
その他	237	63	174	その他	146	183	▲ 37
徴収不能引当金	▲ 132	▲ 125	▲ 7	<b>純資産の部</b>	<b>214,123</b>	<b>212,595</b>	<b>1,528</b>
<b>資産合計</b>	<b>417,835</b>	<b>423,424</b>	<b>▲ 5,589</b>	固定資産形成分	<b>399,496</b>	<b>409,351</b>	<b>▲ 9,855</b>
				余剰分(不足分)	<b>▲ 185,373</b>	<b>▲ 196,756</b>	<b>11,383</b>
				他団体出資等分	-	-	-
				<b>負債・純資産合計</b>	<b>417,835</b>	<b>423,424</b>	<b>▲ 5,589</b>

【連結会計】

(単位：百万円)

	H29①	H28②	比較①-②		H29①	H28②	比較①-②
<b>資産の部</b>	<b>444,415</b>	<b>450,563</b>	<b>▲ 6,148</b>	<b>負債の部</b>	<b>212,350</b>	<b>222,370</b>	<b>▲ 10,020</b>
<b>固定資産</b>	<b>416,500</b>	<b>422,759</b>	<b>▲ 6,259</b>	<b>固定負債</b>	<b>183,219</b>	<b>194,538</b>	<b>▲ 11,319</b>
有形固定資産	380,276	387,073	▲ 6,797	地方債等	155,166	165,818	▲ 10,652
事業用資産	191,507	193,840	▲ 2,333	長期未払金	67	73	▲ 6
インフラ資産	180,115	184,245	▲ 4,130	退職手当引当金	19,255	19,676	▲ 421
物品	8,655	8,989	▲ 334	損失補償等引当金	-	-	-
無形固定資産	2,116	2,553	▲ 437	その他	8,730	8,971	▲ 241
投資その他の資産	34,107	33,134	973	<b>流動負債</b>	<b>29,131</b>	<b>27,832</b>	<b>1,299</b>
(うち基金)	16,390	14,375	2,015	1年内償還予定地方債等	23,654	22,807	847
<b>流動資産</b>	<b>27,915</b>	<b>27,803</b>	<b>112</b>	未払金	2,142	1,605	537
現金預金	16,986	14,765	2,221	未払費用	212	270	▲ 58
未収金	3,644	3,952	▲ 308	前受金	103	104	▲ 1
短期貸付金	218	228	▲ 10	前受収益	-	-	-
基金	2,960	4,998	▲ 2,038	賞与等引当金	1,581	1,531	50
棚卸資産	3,996	3,917	79	預り金	773	722	51
その他	241	69	172	その他	667	792	▲ 125
徴収不能引当金	▲ 132	▲ 125	▲ 7	<b>純資産の部</b>	<b>232,065</b>	<b>228,193</b>	<b>3,872</b>
<b>資産合計</b>	<b>444,415</b>	<b>450,563</b>	<b>▲ 6,148</b>	固定資産形成分	<b>418,466</b>	<b>429,218</b>	<b>▲ 10,752</b>
				余剰分(不足分)	<b>▲ 187,182</b>	<b>▲ 200,994</b>	<b>13,812</b>
				他団体出資等分	<b>781</b>	<b>▲ 31</b>	<b>812</b>
				<b>負債・純資産合計</b>	<b>444,415</b>	<b>450,563</b>	<b>▲ 6,148</b>

## 概要

平成29年度末時点における資産合計は、一般会計等で3,320億円、全体会計で4,178億円、連結会計で4,444億円となっております。また、負債合計では、一般会計等で1,603億円、全体会計で2,037億円、連結会計で2,124億円となっており、資産と負債の差額である純資産は、一般会計等で1,718億円、全体会計で2,141億円、連結会計で2,321億円となっております。

このうち、資産においては、一般会計等・全体会計・連結会計ともに「有形固定資産」が資産の大部分を占めております。負債においては、一般会計等・全体会計・連結会計で「地方債等」や「1年内償還予定地方債等」が大半を占めており、負債のほとんどが地方債等償還残となっております。

前年度との比較において、資産の部では、一般会計等・全体会計・連結会計ともに前年度から減となっておりますが、これは主に建物や工作物などの有形固定資産によるものであります。

主なものとしては、アウガの建物(約1,217百万円)・土地(約170百万円)の取得や、議会棟改修(約479百万円)に伴う資産計上もありましたが、有形固定資産の減価償却(約△10,551百万円)によるものであります。この他にも、次世代健康・スポーツ振興基金の創設による固定資産基金の増、青森駅前再開発ビル(株)への貸付金債権放棄による貸付金の減、流動資産基金(財政調整基金)の取り崩しによる減など、財政運営による固定資産・流動資産の変動もありました。

負債においては、地方債等の発行抑制による地方債残高の減少が進んでいること、職員数減の影響による退職手当引当金の減などにより、こちらも前年度から減となっております。

純資産については、固定資産形成分が一般会計等・全体会計・連結会計において、ともに大きく減少となっておりますが、これは固定資産計上額と連動していることから、この影響によるものであります。

なお、余剰分(不足分)が前年比増となっておりますが、余剰分(不足分)がマイナス値である場合、資金の調達を負債に頼らざるを得ない状況であることから、これは前年度から改善したものと判断できます。



## 2. 行政コスト計算書

「行政コスト計算書」とは、本市が1年間に提供した行政サービスなど経常的な活動に伴うコストと、その財源である使用料・手数料などの収入を明らかにしたものです。

民間企業における損益計算書に近いものですが、単に損益を表すものでなく、福祉や教育、ごみ処理、産業振興等といった様々な行政サービスに要した費用(経常費用と臨時損失)から、使用料・手数料等収入(経常収益と臨時利益)を差し引いた『純行政コスト』を算出しています。この純行政コストは、現在の世代が利益を受けることで発生しているものであるため、市税や国・県の補助金などの現世代の負担で賄われることになります。

○平成29年4月1日から平成30年3月31日

(単位：百万円)

	一般会計等	全体会計	連結会計
経常費用 A	108,452	196,857	229,111
業務費用	44,164	80,976	88,842
人件費	11,498	19,805	24,337
物件費等	30,601	46,799	49,389
その他の業務費用	2,065	14,371	15,116
移転費用	64,288	115,881	140,269
経常収益 B	4,612	38,364	40,517
使用料及び手数料	1,779	18,989	19,209
その他	2,833	19,375	21,309
純経常行政コスト A-B=C	103,840	158,493	188,593
臨時損失 D	799	810	819
臨時利益 E	20	795	811
純行政コスト C+D-E=F	104,619	158,508	188,602

### 《用語解説》

- ・人件費：職員給与や議員報酬、退職給付費用など
- ・物件費等：備品や消耗品、委託料、使用料、施設維持修繕経費、事業用資産の減価償却費など
- ・移転費用：市民への補助金や児童福祉、生活保護、医療費給付に係る社会保障費など
- ・使用料及び手数料：公共施設の使用料や証明書の発行手数料など
- ・臨時損失：災害復旧費、資産の除売却損など臨時に発生するもの
- ・臨時利益：資産の売却益など臨時に発生するもの

## 3. 純資産変動計算書

「純資産変動計算書」とは、貸借対照表に計上されている純資産がどのように増減したかを表しているもので、また、行政コスト計算書の純行政コストが当年度の税収や国・県の補助金により、受益者負担以外の財源によってどの程度賄われたのかを見ることもできます。本市の純資産が、1年間でどのように増減したかを表しており、青森市の資産状況を知ることができます。

○平成29年4月1日から平成30年3月31日

(単位：百万円)

	一般会計等	全体会計	連結会計
前年度末純資産残高 G	171,916	212,595	228,193
純行政コスト(△) F	▲ 104,619	▲ 158,508	▲ 188,602
財源 H	103,839	159,375	189,540
税収等	70,740	105,785	119,739
国県等補助金	33,098	53,590	69,800
本年度差額 H-F=I	▲ 781	867	938
資産評価差額 J	12	12	12
無償所管換等 K	607	649	648
その他 L	-	-	2,274
本年度純資産変動額 I+J+K+L=M	▲ 161	1,528	3,872
本年度末純資産残高 G+M=N	171,755	214,123	232,065

### 《用語解説》

- ・税収等：市税、地方交付税及び地方譲与税など
- ・国県等補助金：国庫支出金及び県支出金など
- ・資産評価差額：有価証券等の評価差額
- ・無償所管換等：無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等

## 《参考》前年度比較

【一般会計等】

(単位：百万円)

		H29①	H28②	比較①-②
行政コスト計算書	経常費用 A	108,452	109,150	▲ 698
	業務費用	44,164	45,891	▲ 1,727
	人件費	11,498	12,520	▲ 1,022
	物件費等	30,601	29,375	1,226
	その他の業務費用	2,065	3,997	▲ 1,932
	移転費用	64,288	63,259	1,029
	経常収益 B	4,612	4,169	443
	使用料及び手数料	1,779	1,795	▲ 16
	その他	2,833	2,374	459
	純経常行政コスト A-B=C	103,840	104,980	▲ 1,140
臨時損失 D	799	1,017	▲ 218	
臨時利益 E	20	-	20	
純行政コスト C+D-E=F	104,619	105,997	▲ 1,378	

純資産変動計算書	前年度末純資産残高 G	171,916	174,470	▲ 2,554
	純行政コスト(△) F	▲ 104,619	▲ 105,997	1,378
	財源 H	103,839	102,542	1,297
	税収等	70,740	69,354	1,386
	国県等補助金	33,098	33,189	▲ 91
	本年度差額 H-F=I	▲ 781	▲ 3,455	2,674
	資産評価差額 J	12	13	▲ 1
	無償所管換等 K	607	887	▲ 280
	その他 L	-	-	-
	本年度純資産変動額 I+J+K+L=M	▲ 161	▲ 2,554	2,393
本年度末純資産残高 G+M=N	171,755	171,916	▲ 161	

【全体会計】

(単位：百万円)

		H29①	H28②	比較①-②
行政コスト計算書	経常費用 A	196,857	200,034	▲ 3,177
	業務費用	80,976	84,000	▲ 3,024
	人件費	19,805	20,785	▲ 980
	物件費等	46,799	45,680	1,119
	その他の業務費用	14,371	17,534	▲ 3,163
	移転費用	115,881	116,035	▲ 154
	経常収益 B	38,364	39,348	▲ 984
	使用料及び手数料	18,989	19,057	▲ 68
	その他	19,375	20,290	▲ 915
	純経常行政コスト A-B=C	158,493	160,687	▲ 2,194
臨時損失 D	810	1,027	▲ 217	
臨時利益 E	795	193	602	
純行政コスト C+D-E=F	158,508	161,521	▲ 3,013	

純資産変動計算書	前年度末純資産残高 G	212,595	213,769	▲ 1,174
	純行政コスト(△) F	▲ 158,508	▲ 161,521	3,013
	財源 H	159,375	159,405	▲ 30
	税収等	105,785	105,312	473
	国県等補助金	53,590	54,093	▲ 503
	本年度差額 H-F=I	867	▲ 2,116	2,983
	資産評価差額 J	12	13	▲ 1
	無償所管換等 K	649	929	▲ 280
	その他 L	-	-	-
	本年度純資産変動額 I+J+K+L=M	1,528	▲ 1,174	2,702
本年度末純資産残高 G+M=N	214,123	212,595	1,528	

## 【連結会計】

(単位：百万円)

		H29①	H28②	比較①－②
行政コスト計算書	経常費用 A	229,111	231,384	▲ 2,273
	業務費用	88,842	91,673	▲ 2,831
	人件費	24,337	25,492	▲ 1,155
	物件費等	49,389	47,987	1,402
	その他の業務費用	15,116	18,194	▲ 3,078
	移転費用	140,269	139,711	558
	経常収益 B	40,517	41,116	▲ 599
	使用料及び手数料	19,209	19,190	19
	その他	21,309	21,926	▲ 617
	純経常行政コスト A－B＝C	188,593	190,269	▲ 1,676
臨時損失 D	819	1,050	▲ 231	
臨時利益 E	811	362	449	
純行政コスト C＋D－E＝F	188,602	190,957	▲ 2,355	
純資産変動計算書	前年度末純資産残高 G	228,193	229,512	▲ 1,319
	純行政コスト(△) F	▲ 188,602	▲ 190,957	2,355
	財源 H	189,540	188,831	709
	税収等	119,739	124,467	▲ 4,728
	国県等補助金	69,800	64,365	5,435
	本年度差額 H－F＝I	938	▲ 2,125	3,063
	資産評価差額 J	12	13	▲ 1
	無償所管換等 K	648	925	▲ 277
	その他 L	2,274	▲ 132	2,406
	本年度純資産変動額 I＋J＋K＋L＝M	3,872	▲ 1,319	5,191
本年度末純資産残高 G＋M＝N	232,065	228,193	3,872	

## 概要

平成29年度における行政サービス等の提供に要した人件費や物件費などの経常費用については、一般会計等で1,085億円、全体会計で1,969億円、連結会計で2,291億円で、使用料及び手数料などの経常収益は、一般会計等で46億円、全体会計384億円、連結会計406億円となり、経常収益から経常費用を差し引いた「純経常行政コスト」は、一般会計等で1,038億円、全体会計で1,585億円、連結会計で1,886億円となりました。また、臨時損失と臨時利益を含めた「純行政コスト」は、一般会計等で1,046億円、全体会計で1,585億円、連結会計で1,886億円となりました。

行政コスト計算書にて、一般会計等における前年度比較では、人件費が約10億円の減となっておりますが、これは給与費削減による影響と、職員数の減による退職手当引当金が前年度より減となったことから、当年度の退職手当引当金繰入額が前年度よりも減となったことによるものです。

その他の業務費用も前年比19億円減となっておりますが、これは平成28年度に青森駅前再開発ビル(株)への貸付金分に係る徴収不能引当金を約18億円計上しており、平成29年度では計上処理が必要ないことによる影響であります。なお、移転費用が約10億円増となっておりますが、これは主に病院事業会計への基準外繰出金によるものと、生活保護の扶助費などの社会給付費の増によるものです。

## 4. 資金収支計算書

資金収支計算書は、1年間の現金の流れ(増減)を示すものであり、その収支を性質に応じて、業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支と区分して表示することで、どのような活動に資金が必要とされているかを明らかにするものです。また、業務活動と投資活動の収支を合算したものを基礎的財政収支といます。なお、この計算書における本年度末現金預金残高は、貸借対照表の資産における現金預金と一致します。

○平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：百万円)

	一般会計等			全体会計		
	H29①	H28②	比較①-②	H29①	H28②	比較①-②
<b>業務活動収支</b> ②-①+④-③= A	9,355	9,755	▲ 400	13,931	13,872	59
業務支出 ①	97,605	96,174	1,431	183,840	183,160	680
業務収入 ②	106,961	105,928	1,033	197,772	197,031	741
臨時支出 ③	1	-	1	1	-	1
臨時収入 ④	-	-	-	-	-	-
<b>投資活動収支</b> ⑥-⑤= B	▲ 3,521	▲ 2,466	▲ 1,055	▲ 5,883	▲ 5,815	▲ 68
投資活動支出 ⑤	9,435	5,794	3,641	12,848	9,577	3,271
投資活動収入 ⑥	5,914	3,329	2,585	6,965	3,762	3,203
<b>基礎的財政収支</b> A+B= C	5,834	7,289	▲ 1,455	8,048	8,057	▲ 9
<b>財務活動収支</b> ⑧-⑦= D	▲ 6,173	▲ 7,769	1,596	▲ 6,662	▲ 7,716	1,054
財務活動支出 ⑦	15,450	16,228	▲ 778	17,360	18,482	▲ 1,122
財務活動収入 ⑧	9,277	8,459	818	10,698	10,766	▲ 68
<b>本年度資金収支額</b> C+D= E	▲ 340	▲ 479	139	1,385	341	1,044
<b>前年度末資金残高</b> F	2,626	3,106	▲ 480	12,346	12,006	340
<b>本年度末資金残高</b> E+F= G	2,286	2,626	▲ 340	13,732	12,346	1,386
前年度末歳計外現金残高 H	503	484	19	503	484	19
本年度歳計外現金増減額 I	121	19	102	121	19	102
本年度末歳計外現金残高 H+I= J	624	503	121	624	503	121
<b>本年度末現金預金残高</b> G+J= K	2,911	3,129	▲ 218	14,356	12,849	1,507

### 概要

業務活動収支は、一般会計等で94億円、全体会計で139億円の増となりましたが、投資活動収支においては、一般会計等で35億円、全体会計で59億円の減、財務活動収支では、一般会計等で61億円、全体会計で67億円の減となりました。

その結果、本年度の資金収支額は、一般会計等で3億円の減、全体会計では14億円の増となり、本年度末の資金残高は、一般会計等で23億円、全体会計で137億円となりました。また、これに歳計外現金を含めた本年度末の現金預金残高は一般会計等で29億円、全体会計では144億円となり、一般会計等では前年から2億円の減、全体会計では15億円の増となりました。

※連結会計における資金収支計算書については、連結対象団体において「公益法人会計基準の運用指針」により、資金収支計算書にあたるキャッシュフロー計算書を作成していない団体もあることから、統一的な基準による地方公会計マニュアルに基づき作成を省略しています。

### 《用語解説》

- 業務活動収支：行政サービスを行うことで生じる収入と支出
  - ・業務支出：人件費、物件費、補助費、扶助費など
  - ・業務収入：市税、使用料、手数料など
- 投資活動収支：資産の形成に関係する収入と支出
  - ・投資活動支出：公共施設の整備や貸付金など
  - ・投資活動収入：土地等の固定資産の売却収入や施設建設の財源である国県補助金など
- 財務活動収支：資金の調達や運用に関係する収入と支出
  - ・財務活動支出：市債の償還や基金積立金など
  - ・財務活動収入：市債の借入れや基金繰入金など
- 歳計外現金：契約保証金や市営住宅の敷金等の預り金といった市の所有に属していない現金

## 第4 財務書類から分かること（財務分析）

### 財務書類から算出される指標など

#### 1. 青森市の決算状況における各指標について

統一的な基準による地方公会計制度による各財務書類を活用し、青森市の財政状況等様々な分析・把握することができます。ここでは、平成29年度決算数値を基に市民一人当たりの資産額などの主な指標についてまとめました。また、統一的な基準によるものは、平成28年度から導入しておりますので、参考までに前年度数値も記載しております。

※青森市の人口【住民基本台帳人口より】 H28決算：287,800人(H29.3.31) H29決算：285,158人(H30.3.31)

※BS：貸借対照表（Balance Sheet） ※PL：行政コスト計算書（Profit and Loss statement）

※NW：純資産変動計算書（Net Worth statement）

##### （1）市民一人あたりの資産・負債等を表す指標

ここでは、市民一人あたりにおける資産・負債額などの指標を表しております。これらの指標は、どれだけ資産があるか、また将来世代に残っている負債（借金）がどれくらいあるかを表しており、財政の健全性を比較することができます。更には、市民一人あたりの行政コストを算出することにより、教育・福祉等の経常的な行政サービスの効率性を比較することができます。

以下の表は、青森市における市民一人当たりの指標について、まとめたものとなっております。平成28年度から平成29年度において、青森市の資産額および負債額ともに前年度から減少したことにより、各指標においても前年度から減っております。

指標	区分	一般会計等	全体会計	連結会計	計算式
①市民一人当たりの資産額	H28	117.7万円	147.1万円	156.6万円	BS資産合計／住基台帳人口
	H29	116.4万円	146.5万円	155.8万円	
②市民一人当たりの固定資産 (土地・建物等)の額	H28	114.9万円	139.5万円	146.9万円	BS固定資産合計／住基台帳人口
	H29	114.3万円	139.1万円	146.1万円	
③市民一人当たりの流動資産 (現金預金等)の額	H28	2.9万円	7.6万円	9.7万円	BS流動資産合計／住基台帳人口
	H29	2.1万円	7.5万円	9.8万円	
④市民一人当たりの負債額	H28	58.0万円	73.3万円	77.3万円	BS負債合計／住基台帳人口
	H29	56.2万円	71.4万円	74.5万円	
⑤市民一人当たりの地方債残額	H28	52.5万円	62.3万円	65.5万円	(BS地方債等+1年内償還予定地方債等)／住基台帳人口
	H29	50.9万円	60.6万円	62.7万円	
⑥市民一人当たりの純行政コスト	H28	36.8万円	56.1万円	66.4万円	PL純行政コスト／住基台帳人口
	H29	36.7万円	55.6万円	66.1万円	

##### （2）弾力性を表す指標

税収等の一般財源が、どれだけ資産形成を伴わないで行政コストに充てられたかを表します。比率が100%を下回っている場合は、翌年度以降へ引き継ぎ資産が形成されたか、または負担が軽減されたことを表します。逆に100%を上回っている場合は、純資産が取り崩されたか、または翌年度以降の負担が増加したことを表します。この比率が100%に近いほど資産形成の余裕度が低いこととなり、100%を上回る状況とは、経常的な行政コストを市税収入等では賄えない状況ということとなります。

指標	区分	一般会計等	全体会計	連結会計	計算式
①行政コスト対税収等比率	H28	103.4%	101.3%	101.1%	PL純行政コスト／NW財源
	H29	100.8%	99.5%	99.5%	

### （３）自律性を表す指標

行政コスト計算書における経常収益は、使用料及び手数料等であり受益者負担の金額を表しており、経常収益の経常費用に対する割合を算定することで、行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表すことができます。経年や類似団体と比較することで、市の受益者負担の水準や特徴を把握することができます。

指標	区分	一般会計等	全体会計	連結会計	計算式
①受益者負担比率	H28	3.8%	19.7%	17.8%	PL経常収益/PL経常費用
	H29	4.3%	19.5%	17.7%	

### （４）資産形成を表す指標

「有形固定資産減価償却率（資産老朽化比率）」は、有形固定資産の耐用年数に対して取得からどの程度経過しているのかを表しております。この比率が高いほど、資産の取得から年数の経過が進んでいるといえます。

※経年を表す指標であり、実際の老朽化度合いを示しているものではありません。

指標	区分	一般会計等	全体会計	連結会計	計算式
①有形固定資産減価償却率	H28	54.1%	54.9%	54.8%	BS減価償却累計/((BS有形固定資産合計-非償却資産)+減価償却累計額)
	H29	55.8%	56.4%	56.3%	

#### 【参考】一般会計等における行政目的別有形固定資産減価償却率

以下の表は、青森市の有形固定資産における有形固定資産減価償却率を行政目的別にまとめたものとなります。H28とH29を比較して、ほとんどの目的別においては減価償却による老朽化が進んだものとなっておりますが、総務においてはH29において「駅前庁舎の取得」や「議会棟の改築更新」があったことから、老朽化比率としては改善しております。

行政目的	生活インフラ・国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務
H28決算	55.5%	56.6%	43.9%	31.0%	39.6%	81.8%	72.7%
H29決算	57.3%	58.3%	45.8%	34.9%	41.9%	86.3%	59.9%

### （５）世代公平性を表す指標

貸借対照表のうち、純資産はこれまでの世代が負担してきた資産を表しております。

「純資産比率」及び「将来世代負担比率」は、世代間の公平性を測る指標の一つであり、今まで比較的豊かな財源等により社会資本整備を行い、地方債の発行を抑制してきたのであれば、「純資産比率」が高く、「将来世代負担比率」が低くなっており、これは将来負担が小さいことを表しております。逆に、地方債によって社会資本形成を継続して行ってきた場合は、「純資産比率」が低く、「将来世代負担率」が高くなります。

指標	区分	一般会計等	全体会計	連結会計	計算式
①純資産比率	H28	50.7%	50.2%	50.6%	BS純資産合計/BS資産合計
	H29	52.7%	54.0%	52.2%	
②将来世代負担比率	H28	49.9%	48.5%	48.7%	(BS地方債+1年内償還予定地方債等)/BS有形固定資産
	H29	48.7%	47.4%	47.0%	

## 2. 各指標による他都市との比較

統一的な基準による財務書類により、数値の作成基準が統一化されたことで、これまでは比較ができなかった他都市との比較が可能となりました。以下の表では、先ほど記載した各指標において、平成29年度決算のうち一般会計等における近隣都市や類似団体である中核市平均との比較をまとめました。

※中核市平均については、平成29年度決算においてすべての団体がそろっていないことから、平成31年3月31日現在のの中核市54市における平成28年度決算の財務書類より算出しております

※中核市平均の人口【住民基本台帳人口より】 H28決算：384,430人(H29.3.31)

### (1) 市民一人あたりの資産・負債等を表す指標

指 標	青森市	八戸市	弘前市	中核市平均 【H28決算】
①市民一人当たりの資産額	116.4万円	107.0万円	150.4万円	148.7万円
②市民一人当たりの固定資産の額	114.3万円	102.1万円	150.7万円	144.1万円
③市民一人当たりの流動資産の額	2.1万円	4.8万円	2.5万円	4.6万円
④市民一人当たりの負債額	56.2万円	51.8万円	56.7万円	44.0万円
⑤市民一人当たりの地方債残額	50.9万円	47.5万円	51.9万円	37.9万円
⑥市民一人当たりの純行政コスト	36.7万円	35.4万円	39.0万円	32.4万円

### (2) 弾力性を表す指標

指 標	青森市	八戸市	弘前市	中核市平均 【H28決算】
①行政コスト対税収等比率	100.8%	99.5%	101.0%	102.9%

### (3) 自律性を表す指標

指 標	青森市	八戸市	弘前市	中核市平均 【H28決算】
①受益者負担比率	4.3%	3.4%	4.6%	5.1%

### (4) 資産形成を表す指標

指 標	青森市	八戸市	弘前市	中核市平均 【H28決算】
①有形固定資産減価償却率	55.8%	64.9%	52.7%	59.4%

### (5) 世代公平性を表す指標

指 標	青森市	八戸市	弘前市	中核市平均 【H28決算】
①純資産比率	52.7%	51.6%	62.3%	70.5%
②将来世代負担比率	48.7%	51.7%	38.0%	28.2%

青森市と他都市を比較した場合、市民一人当たりの資産額については少なく、負債額や地方債残額については多いものとなっております。

純行政コストについては、近隣自治体と比較して少ないものの、中核市平均と比較しては高めとなっており、受益者負担比率については中核市平均・近隣自治体と比較しても低めとなっていることから、行政サービスを提供するために発生したコストをいかにして、使用料・手数料に反映するかを検討する必要があります。

有形固定資産減価償却率については、中核市平均や近隣自治体と比較しても低いものとなっておりますが、将来世代負担比率が高めであることから、今後、施設の老朽化対策を行う際には、世代間の負担に留意しながら検討する必要があります。

## 【資料】財務書類



# 一般会計等貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	326,064	固定負債	143,962
有形固定資産	298,183	地方債等	130,550
事業用資産	161,599	長期未払金	-
土地	60,425	退職手当引当金	12,976
立木竹	1,263	損失補償等引当金	-
建物	206,399	その他	436
建物減価償却累計額	△ 114,016	流動負債	16,326
工作物	4,300	1年内償還予定地方債等	14,631
工作物減価償却累計額	△ 1,494	未払金	34
船舶	1,777	未払費用	190
船舶減価償却累計額	△ 464	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	841
航空機	-	預り金	624
航空機減価償却累計額	-	その他	7
その他	-	<b>負債合計</b>	<b>160,288</b>
その他減価償却累計額	-	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	3,409	固定資産等形成分	328,558
インフラ資産	135,947	余剰分(不足分)	△ 156,803
土地	8,633	他団体出資等分	-
建物	4,062		
建物減価償却累計額	△ 2,773		
工作物	285,490		
工作物減価償却累計額	△ 160,131		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	666		
物品	4,590		
物品減価償却累計額	△ 3,954		
無形固定資産	1,762		
ソフトウェア	1,641		
その他	121		
投資その他の資産	26,119		
投資及び出資金	10,230		
有価証券	1,590		
出資金	8,640		
その他	-		
投資損失引当金	△ 835		
長期延滞債権	2,417		
長期貸付金	3,188		
基金	11,086		
減債基金	3,017		
その他	8,068		
その他	283		
徴収不能引当金	△ 249		
流動資産	5,979		
現金預金	2,911		
未収金	501		
短期貸付金	218		
基金	2,276		
財政調整基金	2,276		
減債基金	-		
棚卸資産	35		
その他	49		
徴収不能引当金	△ 10		
<b>資産合計</b>	<b>332,043</b>	<b>純資産合計</b>	<b>171,755</b>
		<b>負債及び純資産合計</b>	<b>332,043</b>

# 一般会計等行政コスト計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額
経常費用	108,452
業務費用	44,164
人件費	11,498
職員給与費	9,711
賞与等引当金繰入額	841
退職手当引当金繰入額	324
その他	623
物件費等	30,601
物件費	14,473
維持補修費	4,858
減価償却費	11,266
その他	4
その他の業務費用	2,065
支払利息	1,358
徴収不能引当金繰入額	183
その他	524
移転費用	64,288
補助金等	15,000
社会保障給付	39,133
他会計への繰出金	10,112
その他	43
経常収益	4,612
使用料及び手数料	1,779
その他	2,833
純経常行政コスト	103,840
臨時損失	799
災害復旧事業費	1
資産除売却損	73
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	725
臨時利益	20
資産売却益	20
その他	-
純行政コスト	104,619

# 一般会計等純資産変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	合 計	固定資産等形成分		余剰分
				(不足分)
前年度末純資産残高	171,916	337,850		△ 165,933
純行政コスト (△)	△ 104,619			△ 104,619
財源	103,839			103,839
税収等	70,740			70,740
国県等補助金	33,098			33,098
本年度差額	△ 781			△ 781
固定資産の変動 (内部変動)		△ 9,911		9,911
有形固定資産等の増加		5,382		△ 5,382
有形固定資産等の減少		△ 11,348		11,348
貸付金・基金等の増加		2,691		2,691
貸付金・基金等の減少		△ 6,635		6,635
資産評価差額	12	12		
無償所管換等	607	607		
その他	-	-		-
本年度純資産変動額	△ 161	△ 9,292		9,130
本年度末純資産残高	171,755	328,558		△ 156,803

# 一般会計等資金収支計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	97,605
業務費用支出	33,317
人件費支出	12,005
物件費等支出	19,376
支払利息支出	1,413
その他の支出	524
移転費用支出	64,288
補助金等支出	15,000
社会保障給付支出	39,133
他会計への繰出支出	10,112
その他の支出	43
業務収入	106,961
税収等収入	71,073
国県等補助金収入	31,630
使用料及び手数料収入	1,796
その他の収入	2,462
臨時支出	1
災害復旧事業費支出	1
その他の支出	-
臨時収入	-
<b>業務活動収支</b>	<b>9,355</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	9,435
公共施設等整備費支出	5,390
基金積立金支出	3,344
投資及び出資金支出	155
貸付金支出	546
その他の支出	-
投資活動収入	5,914
国県等補助金収入	1,468
基金取崩収入	3,574
貸付金元金回収収入	734
資産売却収入	121
その他の収入	16
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 3,521</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	15,450
地方債償還支出	15,322
その他の支出	129
財務活動収入	9,277
地方債発行収入	9,277
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 6,173</b>
本年度資金収支額	△ 340
前年度末資金残高	2,626
本年度末資金残高	2,286
前年度末歳計外現金残高	503
本年度歳計外現金増減額	121
本年度末歳計外現金残高	624
本年度末現金預金残高	2,911

## 一般会計等財務書類注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価  
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
  - イ 昭和 60 年度以後に取得したもの  
取得原価が判明しているもの……………取得原価  
取得原価が不明なもの……………再調達原価  
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - 取得原価が判明しているもの……………取得原価  
取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的以外の有価証券
  - ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
(売却原価は移動平均法により算定)
  - イ 市場価格のないもの……………取得原価(又は償却原価法(定額法))
- ② 出資金
  - ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
(売却原価は移動平均法により算定)
  - イ 市場価格のないもの……………出資金額

#### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による売価還元法

#### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法  
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	6 年～50 年
工作物	3 年～60 年
物品	2 年～31 年
- ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法  
(ソフトウェアについては、本市における見込利用期間(5 年)に基づく定額法によっています。)

#### (5) 引当金の計上基準及び算定方法

- ① 投資損失引当金  
市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。
- ② 徴収不能引当金  
未収金については、過去 5 年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。  
長期延滞債権については、過去 5 年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。  
長期貸付金については、過去 5 年間の平均不納欠損率により個別に回収可能性を検討し、徴収不能見込額を計上しています。
- ③ 退職手当引当金  
退職手当引当金期末自己都合要支給額を計上しています。
- ④ 賞与等引当金  
翌年度 6 月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

#### (6) リース取引の処理方法

- ① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

該当事項はありません。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

預金（要求払預金（本市「財務規則」において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等））、また、現金は地方自治法（昭和22年法律第67号）第235条の4第1項に規定する歳入歳出に属する現金（歳計現金）としています。

(8) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

② 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、実質的な判定に加え、金額が60万円未満であるときに修繕費として処理しています。

③ 会計間の相殺消去

会計間の繰入繰出額及び債権債務額を相殺消去した金額で表示しています。

④ 消費税及び地方消費税の会計処理

税込方式によっています。

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項はありません。

3. 重要な後発事象

該当事項はありません。

4. 偶発債務

該当事項はありません。

5. 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計

② 一般会計等は、普通会計の対象範囲と差異がありません。

③ 地方自治法第235条の5の規定により出納整理期間が設けられています。

当会計年度に係る出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

④ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

⑤ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、次のとおりです。

実質赤字比率 - (赤字額無し)

連結実質赤字比率 - (赤字額無し)

実質公債費比率 15.2%

将来負担比率 104.3%

⑥ 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額 26,450百万円

⑦ 繰越事業に係る将来の支出予定額 3,556 百万円

(2) 貸借対照表に係る事項

- ① 減債基金に係る積立不足額  
該当事項はありません。
- ② 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額 120,896 百万円
- ③ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、次のとおりです。
 

標準財政規模	66,903 百万円
元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額	137 百万円
将来負担額	195,795 百万円
充当可能基金額	11,771 百万円
特定財源見込額	4,082 百万円
地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額	120,896 百万円
- ④ 地方自治法第 234 条の 3 に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額  
該当事項はありません。
- ⑤ 管理者と所有者が異なる指定区間外の国道や指定区間の一級河川等及び表示登記が行われていない法定外公共物  
該当事項はありません。
- ⑥ 建物のうち 12,987 百万円、土地のうち 2,892 百万円等は、PFI 事業に係る資産が計上されています。

(3) 行政コスト計算書に係る事項

開始貸借対照表を作成しているので、総務省方式改訂モデルから統一的な基準へ変更したことによる主な影響額は省略しております。

(4) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

- ① 固定資産等形成分固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。
- ② 余剰分（不足分）純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(5) 資金収支計算書に係る事項

- ① 基礎的財政収支 7,248 百万円  
※業務活動収支（支払利息支出を除く）+投資活動収支として算出
- ② 既存の決算情報との関連性

	収入（歳入）	支出（歳出）
歳入歳出決算書	123,418 百万円	121,132 百万円
財務書類の対象となる会計の範囲の相違に伴う差額	228 百万円	228 百万円
資金収支計算書	123,646 百万円	121,360 百万円

地方自治法第 233 条第 1 項に基づく歳入歳出決算書は「一般会計」を対象範囲としているのに対し、資金収支計算書は「一般会計等」を対象範囲としているため、歳入歳出決算書と資金収支計算書は一部の特別会計（母子父子寡婦福祉資金特別会計）の分だけ相違します。

- ③ 資金収支計算書の業務活動収支と純資産変動計算書の本年度差額との差額の内訳

資金収支計算書	
業務活動収支	9,356 百万円
投資活動収入の国県等補助金収入	1,468 百万円
債権額等の増減	△2,742 百万円
債務額等の増減	109 百万円
減価償却費	△11,266 百万円
賞与等引当金繰入額	△28 百万円
退職手当引当金繰入額	535 百万円

徴収不能引当金繰入額	1840 百万円
資産除売却損益	△53 百万円
投資損失引当金繰入額	0 百万円
純資産変動計算書の本年度差額	△781 百万円

④ 一時借入金

資金収支計算書上、一時借入金の増減額は含まれていません。

なお、一時借入金の限度額は次のとおりです。

一時借入金の限度額 30,000 百万円

⑤ 重要な非資金取引

重要な非資金取引は以下のとおりです。

該当事項はありません。

# 全体会計貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	396,536	固定負債	179,615
有形固定資産	364,710	地方債等	153,059
事業用資産	178,949	長期未払金	-
土地	66,895	退職手当引当金	19,051
立木竹	1,263	損失補償等引当金	-
建物	242,162	その他	7,505
建物減価償却累計額	△ 139,189	流動負債	24,097
工作物	5,143	1年内償還予定地方債等	19,818
工作物減価償却累計額	△ 2,047	未払金	1,888
船舶	1,777	未払費用	196
船舶減価償却累計額	△ 464	前受金	3
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	1,324
航空機	-	預り金	723
航空機減価償却累計額	-	その他	146
その他	-	負債合計	203,712
その他減価償却累計額	-	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	3,409	固定資産等形成分	399,496
インフラ資産	179,079	余剰分（不足分）	△ 185,373
土地	11,228	他団体出資等分	-
建物	8,778		
建物減価償却累計額	△ 5,290		
工作物	362,366		
工作物減価償却累計額	△ 198,963		
その他	139		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	820		
物品	25,030		
物品減価償却累計額	△ 18,348		
無形固定資産	1,765		
ソフトウェア	1,641		
その他	123		
投資その他の資産	30,061		
投資及び出資金	10,251		
有価証券	1,590		
出資金	8,660		
その他	-		
投資損失引当金	△ 835		
長期延滞債権	5,010		
長期貸付金	3,188		
基金	12,411		
減債基金	3,017		
その他	9,394		
その他	617		
徴収不能引当金	△ 582		
流動資産	21,300		
現金預金	14,356		
未収金	3,716		
短期貸付金	218		
基金	2,742		
財政調整基金	2,742		
減債基金	-		
棚卸資産	163		
その他	237		
徴収不能引当金	△ 132		
資産合計	417,835	純資産合計	214,123
		負債及び純資産合計	417,835



# 全体会計行政コスト計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額
経常費用	196,857
業務費用	80,976
人件費	19,805
職員給与費	17,037
賞与等引当金繰入額	1,285
退職手当引当金繰入額	837
その他	646
物件費等	46,799
物件費	26,549
維持補修費	5,573
減価償却費	14,630
その他	47
その他の業務費用	14,371
支払利息	1,716
徴収不能引当金繰入額	226
その他	12,430
移転費用	115,881
補助金等	74,438
社会保障給付	39,160
他会計への繰出金	2,195
その他	88
経常収益	38,364
使用料及び手数料	18,989
その他	19,375
純経常行政コスト	158,493
臨時損失	810
災害復旧事業費	1
資産除売却損	73
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	736
臨時利益	795
資産売却益	471
その他	324
純行政コスト	158,508

# 全体会計純資産変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	合 計	固定資産等形成分		剰余分
		固定資産等形成分	剰余分	(不足分)
前年度末純資産残高	212,595	409,351	△ 196,756	
純行政コスト (△)	△ 158,508		△ 158,508	
財源	159,375		159,375	
税収等	105,785		105,785	
国県等補助金	53,590		53,590	
本年度差額	867		867	
固定資産の変動 (内部変動)		△ 10,505	10,505	
有形固定資産等の増加		8,239	△ 8,239	
有形固定資産等の減少		△ 14,993	14,993	
貸付金・基金等の増加		3,010	△ 3,010	
貸付金・基金等の減少		△ 6,761	6,761	
資産評価差額	12	12		
無償所管換等	649	649		
その他	-	△ 12	12	
本年度純資産変動額	1,528	△ 9,855	11,383	
本年度末純資産残高	214,123	399,496	△ 185,373	

# 全体会計資金収支計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	183,840
業務費用支出	67,964
人件費支出	19,989
物件費等支出	31,918
支払利息支出	1,773
その他の支出	14,284
移転費用支出	115,876
補助金等支出	74,438
社会保障給付支出	39,160
他会計への繰出支出	2,195
その他の支出	82
業務収入	197,772
税収等収入	108,720
国県等補助金収入	50,180
使用料及び手数料収入	18,021
その他の収入	20,851
臨時支出	1
災害復旧事業費支出	1
その他の支出	-
臨時収入	-
<b>業務活動収支</b>	<b>13,931</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	12,848
公共施設等整備費支出	8,230
基金積立金支出	3,917
投資及び出資金支出	155
貸付金支出	546
その他の支出	1
投資活動収入	6,965
国県等補助金収入	1,468
基金取崩収入	3,992
貸付金元金回収収入	734
資産売却収入	572
その他の収入	199
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 5,883</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	17,360
地方債償還支出	17,231
その他の支出	129
財務活動収入	10,698
地方債発行収入	10,698
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 6,662</b>
本年度資金収支額	1,385
前年度末資金残高	12,346
本年度末資金残高	13,732
前年度末歳計外現金残高	503
本年度歳計外現金増減額	121
本年度末歳計外現金残高	624
本年度末現金預金残高	14,356

## 全体会計財務書類注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

##### ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

##### イ 昭和 60 年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。

##### ② 無形固定資産……………取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの……………取得原価

取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

##### ① 満期保有目的以外の有価証券

##### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

(売却原価は移動平均法により算定)

##### イ 市場価格のないもの……………取得原価(又は償却原価法(定額法))

##### ② 出資金

##### ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格

(売却原価は移動平均法により算定)

##### イ 市場価格のないもの……………出資金額

#### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による売価還元法

ただし、公営企業会計において以下の通りです。

先入先出法による原価法・・・病院事業会計、水道事業会計、自動車運送事業会計

#### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 2年～65年

工作物 3年～80年

物品 2年～31年

##### ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法

(ソフトウェアについては、当市における見込利用期間(5年)に基づく定額法によっています。)

#### (5) 引当金の計上基準及び算定方法

##### ① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

##### ② 徴収不能引当金

未収金については、過去の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去の平均不納欠損率により又は徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去の平均不納欠損率により1又は個別に回収可能性を検討し、徴収不能見込額を計上しています。

##### ③ 退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

##### ④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

##### ⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

#### (6) リース取引の処理方法

##### ① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

該当事項はありません。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

##### ② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

#### (7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいません。

#### (8) 消費税及び地方消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、公営企業会計については、税抜方式によっています。

### 2. 重要な会計方針の変更等

該当事項はありません。

### 3. 重要な後発事象

該当事項はありません。

### 4. 偶発債務

係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けている主なものは次のとおりです。

①平成27年（ワ）第204号損害賠償請求事件（市民病院事務局）

②平成30年（ノ）第4号慰謝料等請求調停事件（市民病院事務局）

### 5. 追加情報

#### (1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

##### ① 全体財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計、母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計、競輪事業特別会計、国民健康保険事業特別会計、介護保険事業特別会計、後期高齢者医療特別会計、駐車場事業特別会計、卸売市場事業特別会計、宅地造成事業特別会計、病院事業会計、水道事業会計、自動車運送事業会計

##### ② 地方自治法第235条の5の規定により出納整理期間が設けられています。

当会計年度に係る出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている団体会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したもとして調整しています。

##### ③ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

# 連結会計貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	416,500	固定負債	183,219
有形固定資産	380,276	地方債等	155,166
事業用資産	191,507	長期未払金	67
土地	69,536	退職手当引当金	19,255
立木竹	1,263	損失補償等引当金	-
建物	256,926	その他	8,730
建物減価償却累計額	△ 145,763	流動負債	29,131
工作物	10,684	1年内償還予定地方債等	23,654
工作物減価償却累計額	△ 5,997	未払金	2,142
船舶	1,777	未払費用	212
船舶減価償却累計額	△ 464	前受金	103
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	1,581
航空機	-	預り金	773
航空機減価償却累計額	-	その他	667
その他	-	負債合計	212,350
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	3,545	固定資産等形成分	418,466
インフラ資産	180,115	余剰分(不足分)	△ 187,182
土地	11,353	他団体出資等分	781
建物	9,029		
建物減価償却累計額	△ 5,434		
工作物	364,495		
工作物減価償却累計額	△ 200,293		
その他	140		
その他減価償却累計額	△ 1		
建設仮勘定	826		
物品	29,826		
物品減価償却累計額	△ 21,171		
無形固定資産	2,116		
ソフトウェア	1,699		
その他	417		
投資その他の資産	34,107		
投資及び出資金	10,349		
有価証券	1,688		
出資金	8,660		
その他	0		
投資損失引当金	△ 835		
長期延滞債権	5,010		
長期貸付金	3,121		
基金	16,390		
減債基金	3,017		
その他	13,373		
その他	654		
徴収不能引当金	△ 582		
流動資産	27,915		
現金預金	16,986		
未収金	3,644		
短期貸付金	218		
基金	2,960		
財政調整基金	2,929		
減債基金	31		
棚卸資産	3,996		
その他	241		
徴収不能引当金	△ 132		
資産合計	444,415	純資産合計	232,065
		負債及び純資産合計	444,415

## 連結会計行政コスト計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金 額
経常費用	229,111
業務費用	88,842
人件費	24,337
職員給与費	21,072
賞与等引当金繰入額	1,541
退職手当引当金繰入額	840
その他	884
物件費等	49,389
物件費	27,901
維持補修費	5,884
減価償却費	15,290
その他	314
その他の業務費用	15,116
支払利息	1,731
徴収不能引当金繰入額	226
その他	13,159
移転費用	140,269
補助金等	64,153
社会保障給付	73,804
他会計への繰出金	2,195
その他	116
経常収益	40,517
使用料及び手数料	19,209
その他	21,309
純経常行政コスト	188,593
臨時損失	819
災害復旧事業費	1
資産除売却損	75
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	743
臨時利益	811
資産売却益	471
その他	339
純行政コスト	188,602

## 連結会計純資産変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	合計	余剰分 (不足分)		
		固定資産等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	228,193	429,218	△ 200,994	△ 31
純行政コスト (△)	△ 188,602		△ 188,584	△ 17
財源	189,540		190,069	△ 529
税金等	119,739		119,855	△ 116
国県等補助金	69,800		70,214	△ 413
本年度差額	938		1,484	△ 546
固定資産の変動 (内部変動)		△ 10,928	10,928	
有形固定資産等の増加		8,522	△ 8,522	
有形固定資産等の減少		△ 15,752	15,752	
貸付金・基金等の増加		3,662	△ 3,662	
貸付金・基金等の減少		△ 7,361	7,361	
資産評価差額	12	12		
無償所管換等	648	648		
他団体出資等分の増加	0			0
他団体出資等分の減少	1,359			1,359
その他	915	△ 485	1,399	
本年度純資産変動額	3,872	△ 10,753	13,812	813
本年度末純資産残高	232,065	418,466	△ 187,182	781

## 連結会計財務書類注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - ア 昭和 59 年度以前に取得したもの……………再調達原価  
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
  - イ 昭和 60 年度以後に取得したもの  
取得原価が判明しているもの……………取得原価  
取得原価が不明なもの……………再調達原価  
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額 1 円としています。
- ② 無形固定資産……………取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - 取得原価が判明しているもの……………取得原価  
取得原価が不明なもの……………再調達原価

#### (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的以外の有価証券
  - ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
(売却原価は移動平均法により算定)
  - イ 市場価格のないもの……………取得原価(又は償却原価法(定額法))
- ② 出資金
  - ア 市場価格のあるもの……………会計年度末における市場価格  
(売却原価は移動平均法により算定)
  - イ 市場価格のないもの……………出資金額

#### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- 先入先出法による売価還元法  
ただし、公営企業会計において以下の通りです。また、一部の連結対象団体においては、最終仕入原価法によっています。  
先入先出法による原価法・・・病院事業会計、水道事業会計、自動車運送事業会計

#### (4) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法  
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	2 年～65 年
工作物	3 年～80 年
物品	2 年～31 年
- ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)……………定額法  
(ソフトウェアについては、当市における見込利用期間(5 年)に基づく定額法によっています。)

#### (5) 引当金の計上基準及び算定方法

- ① 投資損失引当金  
市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。
- ② 徴収不能引当金  
未収金については、過去の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。  
長期延滞債権については、過去の平均不納欠損率により又は徴収不能見込額を計上しています。  
長期貸付金については、過去の平均不納欠損率により 1 又は個別に回収可能性を検討し、徴収不能見込額を計上しています。
- ③ 退職手当引当金  
期末自己都合要支給額を計上しています。
- ④ 損失補償等引当金  
履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

該当事項はありません。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいません。

(8) 消費税及び地方消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、公営企業会計及び一部の連結対象団体については、税抜方式によっています。

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項はありません。

3. 重要な後発事象

連結対象団体である青森駅前再開発ビル株式会社については、平成29年3月31日をもって解散し、平成30年4月14日に青森地方裁判所による特別清算終結決定の確定がされました。

4. 偶発債務

係争中の訴訟等で損害賠償等の請求を受けている主なものは次のとおりです。

- ①平成27年（ワ）第204号損害賠償請求事件（市民病院事務局）
- ②平成30年（ノ）第4号慰謝料等請求調停事件（市民病院事務局）

5. 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 連結財務書類の対象範囲は次のとおりです。

団体（会計）名	区分	連結の方法	比例連結割合
一般会計	一般会計	－	－
母子父子寡婦福祉資金貸付金特別会計	特別会計	全部連結	－
競輪事業特別会計	特別会計	全部連結	－
国民健康保険事業特別会計	特別会計	全部連結	－
宅地造成事業特別会計	特別会計	全部連結	－
卸売市場事業特別会計	特別会計	全部連結	－
介護保険事業特別会計	特別会計	全部連結	－
後期高齢者医療特別会計	特別会計	全部連結	－
駐車場事業特別会計	特別会計	全部連結	－
病院事業会計	公営企業会計	全部連結	－
水道事業会計	公営企業会計	全部連結	－



自動車運送事業会計	公営企業会計	全部連結	-
青森地域広域事務組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	※下記参照
黒石地区清掃施設組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	23.83%
津軽広域水道企業団	一部事務組合・広域連合	比例連結	9.85%
南黒地方福祉事務組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	16.28%
青森県後期高齢者医療広域連合	一部事務組合・広域連合	比例連結	(一般会計分) 18.98% (特別会計分) 21.93%
青森県交通災害共済組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	22.02%
青森県市長会館管理組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	23.19%
青森県市町村総合事務組合	一部事務組合・広域連合	比例連結	0.11%
公立大学法人青森公立大学	地方独立行政法人	全部連結	-
青森市土地開発公社	地方三公社	全部連結	-
(公財)青森市シルバー人材センター	第三セクター等	全部連結	-
(一財)青森市文化スポーツ振興公社	第三セクター等	全部連結	-
(株)アップルヒル	第三セクター等	全部連結	-
(公財)青森学術文化振興財団	第三セクター等	全部連結	-
職業訓練法人青森情報処理開発財団	第三セクター等	比例連結	40.00%
(一財)青森市観光レクリエーション振興財団	第三セクター等	全部連結	-

連結の方法は次のとおりです。

- I 公営企業会計は、全て全部連結の対象としています。
  - II 一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。  
 なお、青森地域広域事務組合における比例連結割合については、内容に応じて異なる比例連結割合を適応しており、共通経費(総務費・議会費)78.079%、民生費 90.003%、衛生費 50.0~89.0%、青森消防費 100%等となっております。
  - III 地方独立行政法人及び地方三公社は、全て全部連結の対象としています。
  - IV 第三セクター等は、出資割合等が 50%を超える団体(出資割合等が 50%以下であっても財政支援等の実態や関与実態等を総合的に勘案し、実質的に主導的な立場を確保している団体を含む。)は、全部連結の対象としています。また、いずれの地方公共団体にとっても全部連結の対象とならない第三セクター等については、出資割合等や活動実績等に応じて、比例連結の対象としています。ただし、出資割合が 25%未満であって、損失補償を付している等の重要性が無い場合は、比例連結の対象としていない場合があります。
- ② 地方自治法第 235 条の 5 の規定により出納整理期間が設けられています。  
 当会計年度に係る出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。  
 また、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている団体会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。
  - ③ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。



令和元年5月28日作成  
青森市役所 企画部財政課